

事業活動を通じた サステナビリティの実現に向けて

持続可能な地域社会の発展に貢献するために

日本たばこ産業株式会社
関西リレーション推進部

ひとの
ときを、
想う。 

自己紹介

◆氏名 田上 阿樹人 (たがみ あきと)

◆社名・所属 日本たばこ産業株式会社 関西リレーション推進部

◆経歴

- ・2008年新卒で日本たばこ産業株式会社に入社。大阪支店堺営業部でたばこ営業職に従事
- ・その後、2010年より京都支店、2015年より神戸支店にてたばこ営業を担当
- ・2018年により、北関西支社営業企画部にて支社目標および全体戦略の策定や各種施策の企画立案・改善を担当
- ・2020年より現職。関西リレーション推進部にてサステナビリティ戦略およびコミュニティインベストメント施策の実行を担当



JTグループの全体像

事業展開

事業活動を通じて、様々な製品・サービスを提供し「企業価値」を向上させるとともに、「社会的価値」を生み出す

たばこ事業
Tobacco Business



医薬事業
Pharmaceutical Business



加工食品事業
Processed Food Business



JTグループの全体像

2020年度実績 (2020年1月-12月)

売上収益

2兆 926億円

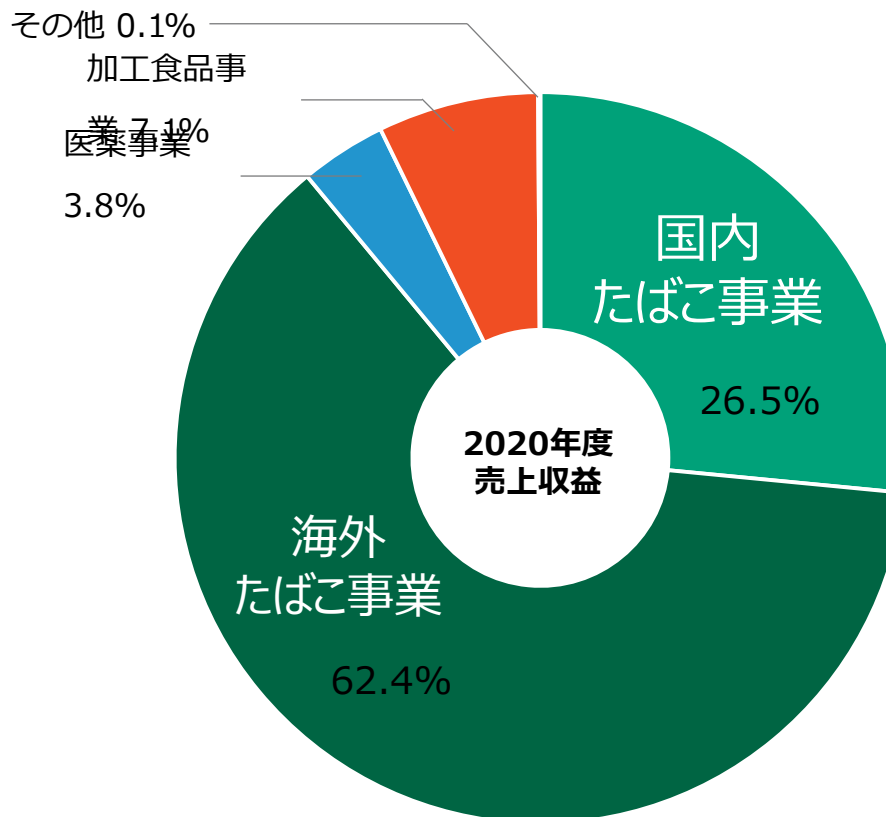
調整後営業利益

4,870億円 (財務報告ベース)

調整後営業利益 =

営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費
+ 調整項目 (収益および費用) ※

※ 調整項目 (収益および費用) = のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益および費用等

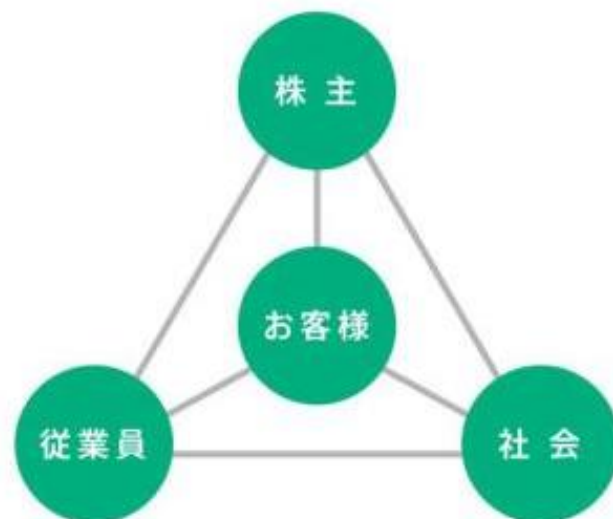


JTグループのサステナビリティ推進

経営理念 “4Sモデル” と サステナビリティ

経営理念

お客様を中心として、株主、従業員、社会の4者に対する責任を高い次元でバランスよく果たし、4者の満足度を高めていく。



- 「**4Sモデル**」の追求という経営理念のもと、事業投資を通じた持続的な利益成長により、それぞれのステークホルダーにとっての価値を最大化できるものと確信
- お客様を中心として、株主・従業員、そして社会に対してコミットしている我々の経営理念「4Sモデル」の追求は、サステナビリティの考え方との親和性が非常に高い

JTグループのサステナビリティ戦略

JTグループのサステナビリティ戦略は、経営理念である4Sモデルに基づき、マテリアリティ分析を踏まえて策定されています。サステナビリティ戦略を推進することにより、通常の事業サイクルの先に目を向け、事業の持続性、地球の未来、そして私たちが暮らす社会についてより深く考えることにつながります。

3つの基盤 (グループ共通)

人権の尊重

環境負荷の軽減と
社会的責任の発揮

良質なガバナンスと
事業規範の実行

各事業の注力分野 (各事業が優先的に取り組む分野/中期取り組み目標 (KPI) 設定)

たばこ事業

お客様の期待を上回る
製品・サービスの提供

人財への投資

持続可能なサプライ
チェーンの構築

事業を取り巻く規制
への適切な対応と
不法取引の防止

医薬事業

お客様の期待を上回る
製品・サービスの提供

人財への投資

製品の安全性と責任

加工食品事業

お客様の期待を上回る
製品・サービスの提供

人財への投資

持続可能な
サプライチェーンの構築

事業活動を通じてSDGsに貢献



**たばこ事業：注力分野
人財への投資
～地域社会への貢献～**

JTグループコミュニティインベストメント基本方針

JTグループは、責任ある地域コミュニティの一員として、自然・社会・人間の多様性に価値を認め、幅広いステークホルダーとともに社会課題の解決に向けて取り組んでいきます。

JTグループは、包摂的かつ持続可能な地域社会の発展のため、以下三つの領域を、コミュニティインベストメントの重点領域として位置づけます。



格差是正



災害分野



環境保全



マルチステークホルダー・
パートナーシップ推進

取り組みのテーマ「Rethink」

国内で取り組むコミュニティインベストメント活動は「Rethink PROJECT」として、地域社会とのパートナーシップを基盤に、各施策を有機的に繋げることで更なる発展を目指しています。

「Rethink PROJECT」は6つの施策と、地域の特性にあわせた様々なエリア独自施策により構成しています。

Rethink PROJECT

RethinkPROJECT公式サイト
<https://www.rethink-pjt.jp/>

Rethink Creator PROJECT

視点変え
ポイント 地域 ▶ 地元



本質
ポイント 地産地消

ひろえば街が好きになる運動

視点変え
ポイント ひろう ▶ すてない



本質
ポイント 清掃アクティビティ

東日本大震災復興支援

視点変え
ポイント 一方向の支援 ▶ 双方向の協働



本質
ポイント 未来につなぐ

SDGs貢献プロジェクト

視点変え
ポイント CSR ▶ SDGs



本質
ポイント パートナーシップ

JTの森

視点変え
ポイント 人「と」自然 ▶ 人「も」自然



本質
ポイント コミュニティ形成

Rethinkフォーラム

視点変え
ポイント 当たり前 ▶ 個性



本質
ポイント 地域の魅力再発見

IN PROGRESS

エリア独自施策

「環境保全」への取り組み

JTグループでは、全国各地で、森林保全活動や環境美化活動などの環境保全活動を、地域の皆様とともに取り組んでいます。



ひろえば
街が好きに
なる運動

ひろえば街が好きになる運動

「ひろく」という体験を通じて「すてない」気持ちを育てたいという願いのもと、2004年から全国各地で、自治体、学校、ボランティア、各催事の実行委員会や協働団体など、さまざまな方々と市民参加型の清掃活動を実施しています。



参加してくれた人数



1,903,490人

実施回数



2,062回

集めたゴミの重量



950.5t

参加団体数



4,083団体

* 実績数値は2021年4月までの累計実績

大阪支社の活動事例

大阪支社管轄の大阪府・奈良県・和歌山県内で開催されるイベントに合わせ、イベント内に特設テントを設け「ひろえば街が好きになる運動（ひろ街）」を行っています。参加者の方は、特設テントでJTオリジナル清掃ツールを受け取り、イベントを楽しみながら会場内に落ちているゴミや吸い殻を回収、ごみの分別まで行っていただいております。

【2019年度活動実績】

- ◆ 7月 おどろんや～紀州よさこい祭り～（和歌山県和歌山市）
- ◆ 10月 堺まつり（大阪府堺市）
- ◆ 11月 シェフェスタin奈良（奈良県奈良市）

【2020年度活動実績】

- ◆ 11月 おどろんや～紀州よさこい祭り～（和歌山県和歌山市）

【2021年度活動実績】

- ◆ 10月 SUN DAYS PARK（奈良県奈良市）
- ◆ 11月 おどろんや～紀州よさこい祭り～（和歌山県和歌山市）

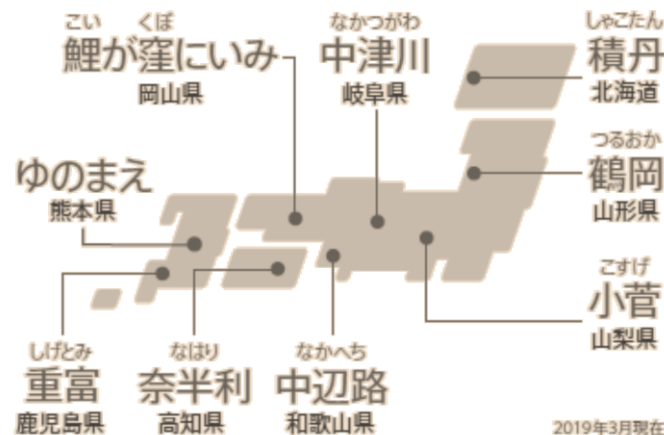


「環境保全」への取り組み

JTグループでは、全国各地で、森林保全活動や環境美化活動などの環境保全活動を、地域の皆様とともに取り組んでいます。



各都道府県の企業の森づくりを支援する森林保全協定の枠組みを活用。
地域が目指す森づくりに必要な手入を支援する「JTの森」を2005年より全国各地で実施しています。
また、毎年春と秋には従業員ボランティアが、地元の方々と森林整備を行う「森づくりの日」を実施しています。



「環境保全」への取り組み

JTグループでは、全国各地で、森林保全活動や環境美化活動などの環境保全活動を、地域の皆様とともに取り組んでいます。

大阪支社の活動事例

JTの森 中辺路がある和歌山県田辺市は、総面積約1,000km²のうち約90%を山林が占めています。世界遺産として有名な熊野古道の主要部分を含む地域でもあり、日本国内からだけでなく大勢の外国人観光客にも人気のエリアに位置しています。

2005年の活動開始時は、USJと同規模の50ヘクタールの広大な山肌には木がほとんどなく、土や石がむき出しでしたが、第1期の10年間で約18万本のサクラ・モミジ・コナラ・ヒノキなどを植栽し、広葉樹と針葉樹の混交林作りを目指して苗木の生長に必要な手入れに取り組んできました。

年に2回の活動を重ねるごとに山肌は緑を取り戻し、未来の森が着実に育まれています。

- ◆場所 和歌山県田辺市中辺路町野中
- ◆面積 約54ヘクタール
- ◆期間 20年間
- ◆整備目的 皆伐地の針広混交林再生
- ◆主な整備 下刈、除伐、間伐、補植、作業道整備



* 2019年秋活動の様子

JTの森について

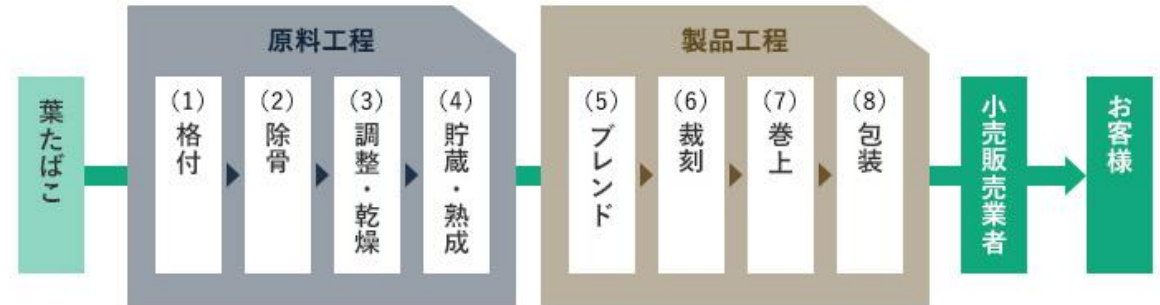
なぜ「JTの森」に取り組んできたのか

1. 私たちの事業を支えてくれる自然の恵みに感謝し
今後も自然環境を大切にしていきたい……
そうした思いから、自然環境保全の一環として、森
林保全活動を進めています。

変わらない基本理念

2. 「JTの森」の活動(森づくりの日)には、社員や家
族も参加。活動を通じて、自然環境の大切さにつ
いて実感することで環境を守っていくことの重要性
を考え行動していくための契機

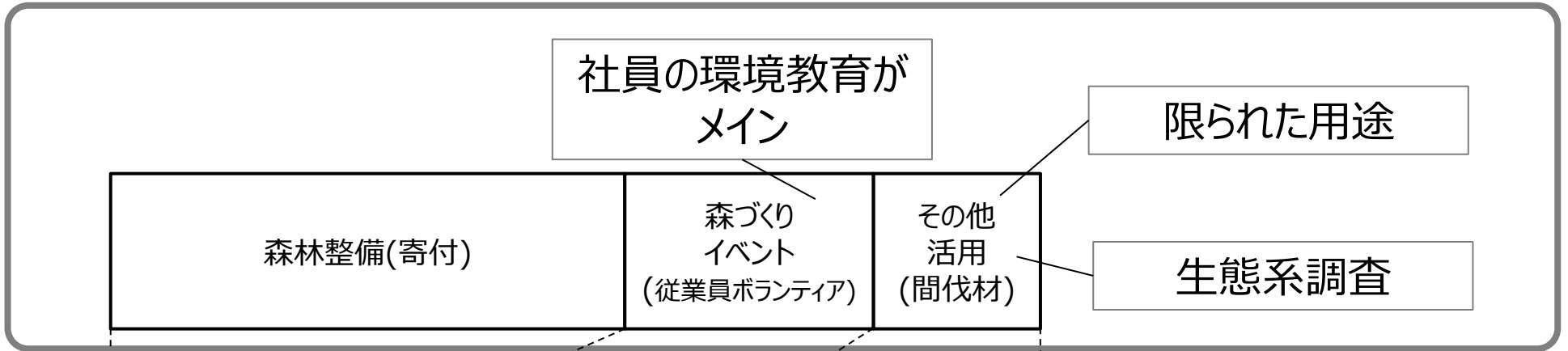
今まで：社員教育・従業員ボランティアをメインとして実施
サステナビリティ戦略に基づく変革後は……？



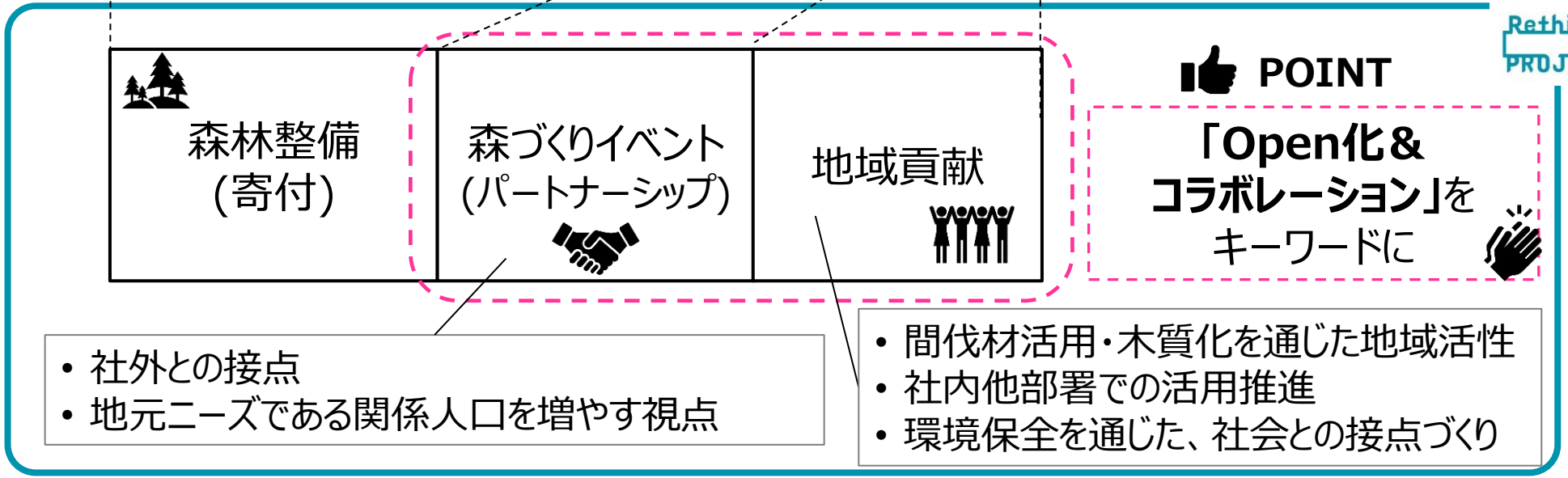
たばこ葉だけでなく、巻紙、包装PKG、販促品などの紙製品も…

JTの森施策における 施策目的・事業構造の変革

2019年まで
主目的：CSR



2020年から
目的
地域課題解決
+
事業貢献



JTの森 間伐材の活用

地域から排出される「廃棄物」をアップサイクルし、地域に還元します
JTの森中辺路で排出される「ひのき間伐材」を協業企業との連携により、
「生分解性タンブラー」や「SDGsバッジ」等として価値創造します

【Before】



画像はフリー素材



画像はフリー素材

【After】



生分解性タンブラー



Rethinkループ



SDGsバッジ



ベンチ

生分解性プラスチック：

- ・自然界において微生物が関与して環境に悪影響を与えない低分子化合物に分解されるプラスチックのこと
- ・間伐材から10%のヘミセルロースを抽出し、残り90%を植物などから抽出したセルロースを使用し、完全生分解性プラスチックを制作

JTのありたい姿と課題感

JTのありたい姿

- CSRに留まらない新しい地域貢献を目指す
- ✓ 持続可能な企業の森づくり／地域との共生

取り組みを推進する上での前提

- ✓ 事業を通じてSDGsに貢献する
- ✓ 戦略面で整合性がとれ、実行面でも無理矛盾がない（ニサステナブル）

しかしながら、現地現場での取り組み推進には課題がある

社内における課題

- ・今までどおりのCSR活動ではだめなのか
- ・実際の活動をどう変えるのか？
- RethinkPROJECTの発足も含め、社内の認識統一が図られた

現地現場における課題

- 地元の魅力のPR不足（県外のひとに来てほしい）
- ビジネスに繋がる仕組みがない（不足している）／現地の取り組みがバラバラ
- どのように課題解決に繋げるか？

課題解決に向けて

日本みどりのプロジェクト

- 2025大阪・関西万博
- GREEN Recovery
- Go GREEN
- One GREEN
- National Park

+

参画企業・団体

地域

ゴール

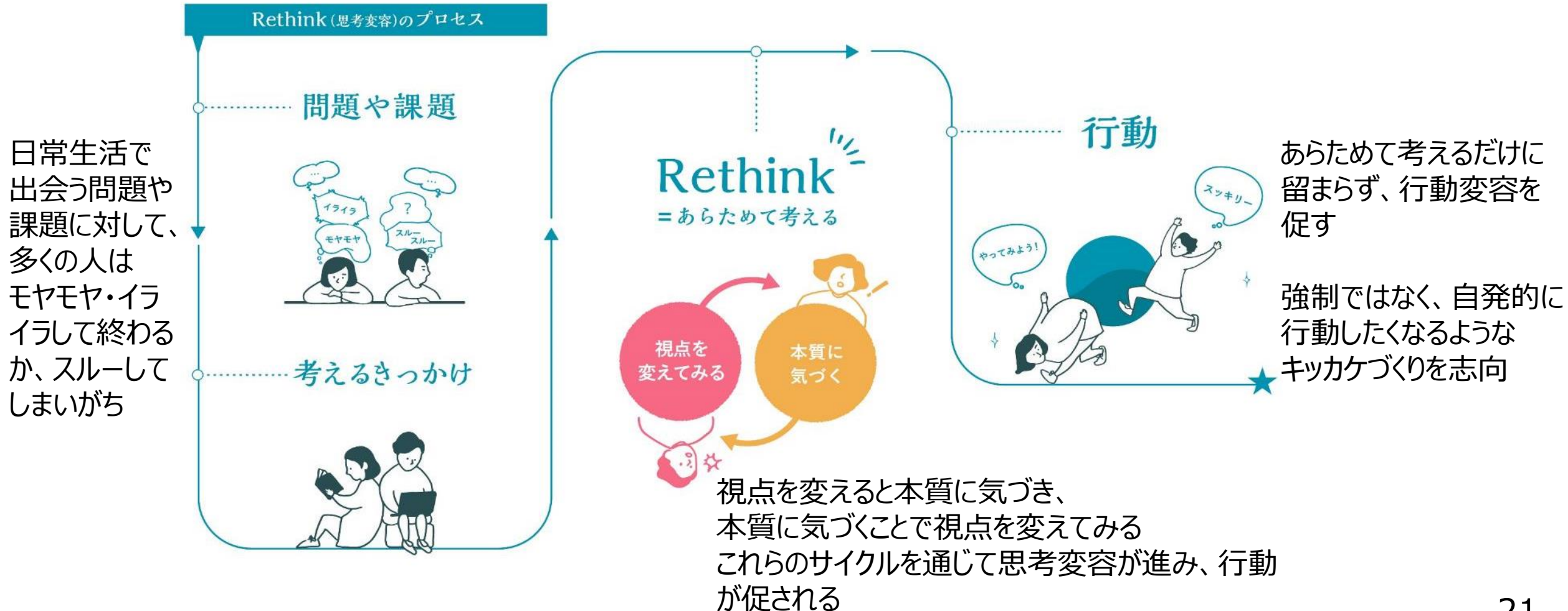
みどりでおもてなし文化を社会に根差す

「CSRに留まらない新しい地域貢献へ」

Appendix

Rethinkの概念

- Rethinkは「あらためて考える（再考する）」という意味
- 「視点を変えてみる」と「本質に気づく」のサイクルを通じて、明るく前向きな行動変容を志向



Rethink PROJECTの世界観

- Rethink PROJECTは、前向きな行動変容にむけた思考変容のキッカケをつくるプロジェクト
- 様々なパートナーとともに「新しい明日」を創ろうとする、明るく前向きな世界観を表現

ステートメント

私は
家族は
地域は、この国は
風土は、文化は
好き嫌いは
美しさは、正しさは
心は、常識は
あなたは
今ある世界は
本当に、昨日と同じか。
Rethinkしよう

当たり前はもう
当たり前じゃないかもしれない
今日、明日をつくろう

世界は、昨日と同じか。
Rethink PROJECT

キービジュアル

レンズを通して反転した世界から視点変えを想起



Rethinkタウン Rethink PROJECT傘下の各種施策が展開されている街並みのイメージ

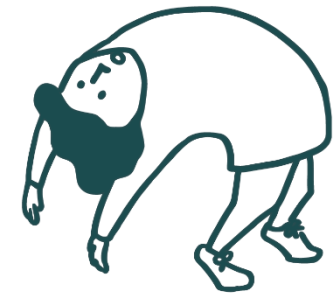


キャラクター

明るく前向きにRethinkするキャラクター



リシンくん



リシルちゃん

RethinkPROJECT公式サイト
<https://www.rethink-pjt.jp/>

「JTの森」とは？概要

JTの森 施策概要

- 2005年開始
- 各地の森を一定期間借り受け、森づくりに必要な手入れを支援する取り組み
- 県・町・村などの地元自治体、地元の人々や森林組合と協働
- **森の特性や地元のニーズに応じた森林整備プラン**を策定して実施

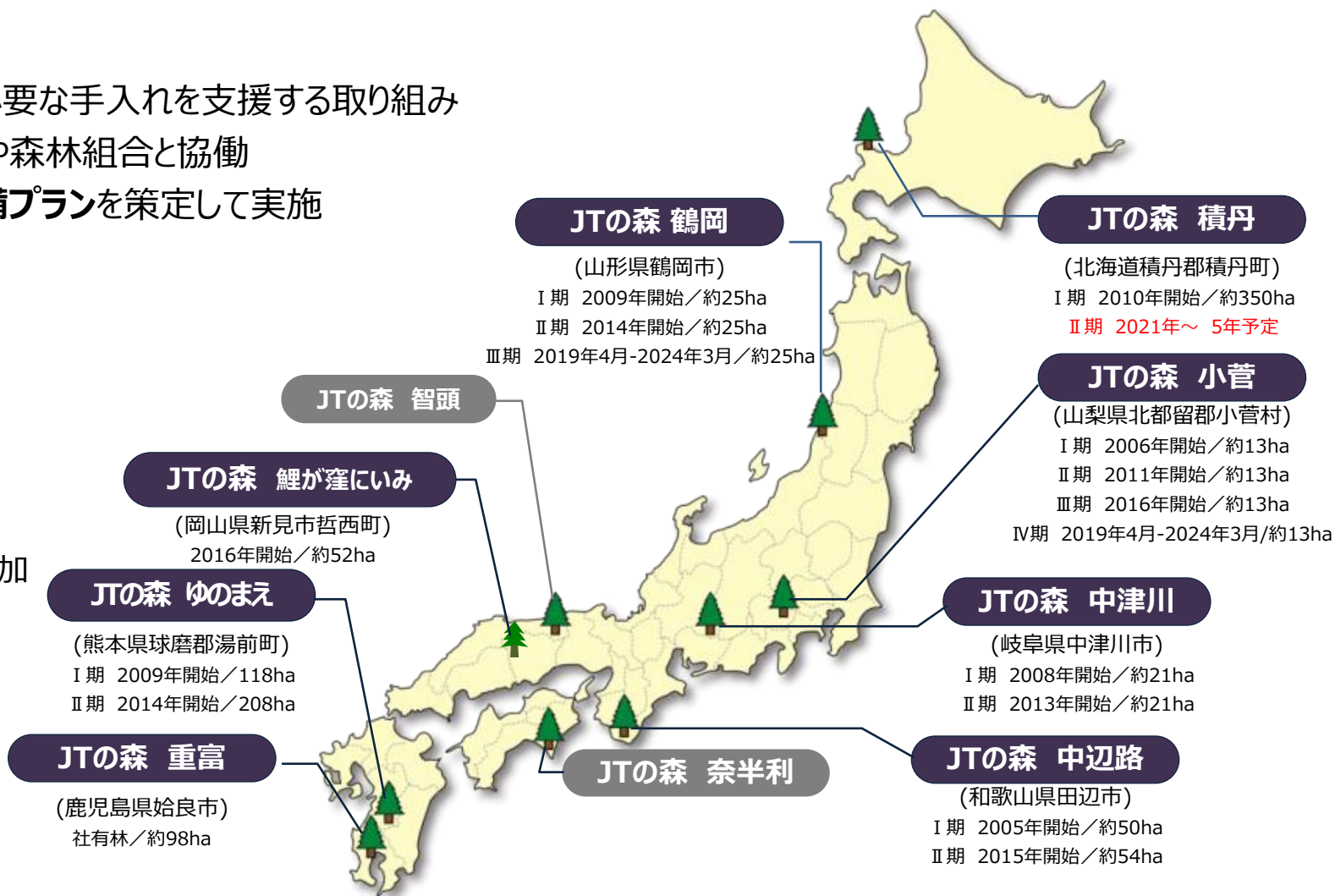
【森林整備活動】

植林、間伐、枝打ち、下草刈り、作業道設営、
獣害ネット設置、担い手育成

【森づくりの日】

従業員がボランティアとして森林整備活動に参加

計：1023ha
(社有林98ha含む)



【補足】JTの森 日常の整備

- 森林組合や、自治体が委託している業者は以下のような作業(林業施業)を実施して森を守り育てています

森林づくりのプロによる整備



【補足】JTの森 「森づくりの日」 ～森林整備の作業体験～

- 森づくりの日には、以下のような作業体験を通して森林整備の大切さを実感するイベントを実施しています

JTグループ従業員による森林整備の作業体験



【補足】JTの森 「森づくりの日」 ～学ぶ～

森の課外教室

テーマ 「森林」「人と森の関わり」「地域性」のいずれかに
関わるもの

目的 上記に対する理解を深めることで 地域らしい森に
育てていくための気づきや共有のきっかけをつくる

講師 地域の方(職業年齢性別不問)
※これまでの最年少は中学1年生、最高齢は80代



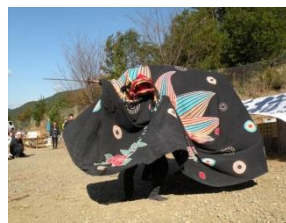
Forest 森林そのものを学ぶ

例)植生、構成種、生態系、
地形、生物、特性、区分



Human 人と森の関わりを学ぶ

例)林業、暮らし、営み、利用、
人が影響を受ける機能や働き、
自然観、祭礼、表現、
アート、匠



Locality 地域性を学ぶ

例)産業、文化、歴史、伝統、
遊び、ことば、昔話、地理、
気候風土、地域トピックス

積丹町 × JT



3つのテーマと主なコンテンツ例